

# 挨拶

真鍋 賢二

参議院議員

皆さん、こんにちは。ようこそこのシンポジウムにお越しいただきました。心から歓迎、お礼を申し上げます。ご紹介をいただきました真鍋賢二でございます。

現在、私は参議院の予算委員長をいたしており、この内分泌攪乱化学物質の来年度の予算にもかかわりを持つわけです。そういうことで、来年もぜひこのシンポジウムが開催されるべく予算づけすることを、まずもってお約束をするわけであります。私が「イエス」と言わなければこの予算はつきませんので、そんなオーバーなことを申し上げるわけです。実はこの第4回の会合を迎えたわけですが、最初のスタートにあたり、英国の当時の副総理でございますプレスコットさんやミーチャー環境大臣と親交を持ち、お話をしました。ぜひ日本で国際会議を開催してほしいという要請をいただき、第1回目の会合を京都で開催いたしましたわけであります。

今日、第4回を迎えたわけですが、「ああやっぱり多くの皆様方のご意見を聞きながら、日本で開催してよかったな」という感じを持つものであります。現在、多発性テロ問題で世界が騒然としておりますが、日本は憲法上武器も持たない、そしてまた経済大国となって世界を制覇することもよさなければならない、世界の平等性を維持していかなければならないという気持ちがいっぱいあります。

日本は、そんな見地から申しますと、ぜひこの学術分野、特に環境ホルモン問題について、世界をリードする国になりたいと、こんな願望を持っているわけです。今日、世界のトップレベルの皆様方にお集まりをいただいて、このように開催できましたことを、非常にうれしく存ずるわけであります。何としてもこの環境問題につきましては、日本が世界のリーダー国として進んでいけますように、その願望を達成させていただけるように、皆様方のご支援・ご協力をよろしくお願いをいたすしだいであります。

このところの環境ホルモン会議を見てみましても、まだ未知の世界、不確かなことが非常に多いわけですが、皆さんの意見をちょうだいしながら、この分野の一年一年、毎年毎年が前進であり、進歩であるように、ご協力をよろしくお願いをいたすしだいであります。

今日、おみえになっていただいた国際関係の皆様方、そしてまた国内の皆様方にありましても、どうぞ研鑽・努力され、その目的が1日も早く達成できますように、心から念ずるしだいです。日本ではいろいろな賞があるわけですが、なかなかその賞をいただくというのは大変なことであります。できることなら、この国際ホルモン会議において、世界の権威ある賞が伝達できるようになればありがたいと、そんな感じを持っており、私はそれがノーベル賞に代わる、このホルモン会議の成果ではないだろうか、こんな気持ちを持っているわけです。

皆様方のより一層のご精進を祈念しながら、せっかくの機会でございますので、日本のいいところをほぼ見ていただくと同時に、観光もしていただいて、できますれば少ない予算であろうと思いますが、国内にもひとつドルを落としていついていただきたい、また円を落としていついていただきたいと思っております。

皆様方のご来会を心から歓迎申し上げまして、一言、ご挨拶に代えさせていただきます。皆様方のご活躍とご健勝を祈念申し上げます。ありがとうございました。